

第1回岐阜県庁舎再整備検討委員会議事概要

1. 日時：平成26年12月1日（月） 13:00～14:35
2. 場所：岐阜県庁4階 特別会議室
3. 出席者：
 - (1) 委員
高木座長、岡田委員、岡本委員、岡山委員、小川委員、田島委員、広江委員、舟口委員、洞口委員、松井委員、松岡委員、松本委員、矢口委員
 - (2) 県
知事、総務部長、総務部次長、大脇管財課長、片桐管財課長、県庁舎再整備企画監、長尾防災課長、加藤公共建築住宅課長
- 4 議事概要：
 - (1) 座長の選出
座長に高木委員が就任
 - (2) 「岐阜県庁舎の現状と課題」について
事務局より県庁舎の現状と課題を説明、委員からの主な意見は次のとおり。

<執務環境>

- ・県庁舎は、楽しく働ける場であってほしい。食堂やトイレ、仮眠室などが時代遅れであり、もっと快適な状況であることが必要。
- ・災害情報集約センター、仮眠室を初めて見たが、県政の拠点としてもっと職員が気持ち良く働けるようにすることが必要。
- ・今働いている職員に、働く上でどのようなスペースが必要か、機会があればそれぞれの職場での意見を聞いてほしい。

<セキュリティ>

- ・県民に開かれたオープンスペースと同時に、セキュリティをしっかりと確保すべき。

<災害等対策拠点>

- ・県庁舎での防災訓練を見学したことがあるが、スペースのない中で努力しているという印象を持った。
- ・県庁舎周辺敷地は、水引きが悪く地盤が軟らかいと聞いているがどうか。
- ・県庁舎周辺はハザードマップによると浸水エリアに入っているため、それを踏まえた対応が必要。
- ・免震構造による耐震化、非常用電源等の整備をするとともに、災害時にはIT化によりいろいろな所から情報が集まってくるため、対応ができるよう危機管理体制を整える必要がある。

<ユニバーサルデザイン>

- ・多くの職員がいて、外から出入りをする人の数を考えると、各階にバリアフリートイレを設置するような勢いで検討してほしい。

<親しみやすい空間>

- ・県庁舎内に落ち着ける場所がもっとあってもいいと思う。いざという時は避難場所として機能する。
- ・県庁舎は県民に開かれた所であり、気楽に寄れる、例えば知事と会って話しができたり、子供が遊びながら県について学べるような面も必要。保育所があってもいい。
- ・県庁舎を訪れた人が気兼ねなく相談できるようなスペースが必要。
- ・県庁舎に来て、県が何をやっているのか知れる場があれば時間を有効に使える。

<県庁舎>

- ・敷地があるのであれば、高層でなく低層のものを広くつくって施設をまとめてもいいのではないか。
- ・敷地の都合で高層にした県庁舎もあるようだが、高層化はあまりいいとは言えない。
- ・少子高齢化に伴う人口減少、IT化に伴い、県庁舎もある意味コンパクト化、スリム化して効率よく運営できるものにしたらいいいのではないか。各市町村、住民との対話ができる県庁舎にしてもらいたい。

<知事公舎>

- ・迎賓、防災機能ということから考えても、県庁舎に近いところに知事公舎があった方がいいと思う。
- ・迎賓館の機能や防災の拠点として、岐阜県なりのものが必要ではないかと思う。

<国際化への対応>

- ・同時通訳設備、迎賓機能、食事など、これから進む国際化への対応が必要。

<アクセス>

- ・いざという時に備えて、アクセス道路をしっかりとしておく必要がある。
- ・県庁舎へのアクセスが、車しかない状況。アクセスの充実を考えないといけない。

<駐車場>

- ・駐車場が今時平らな土地にあるのはもったいない。建物の下に設けたり、まとめることなどが必要だと思う。
- ・駐車場をもう少し整理して、一か所に集約した方がよい。
- ・駐車場も多ければいいというものではない。これから先、車の状況がどう変わっていくかを念頭に置くことも大切。

<ランドデザイン>

- ・岐阜県は「木の国・山の国」であり、全体のランドデザインについて、公園や木のイメージを大事にして、公共スペースをつくってはどうか。

<県庁舎周辺県有施設>

- ・県庁舎周辺に様々な建物が散在しており、集約化すべき。施設の機能集約、統合が必要だと思う。
- ・今後も使える建物と建替えした方が効率のいい建物について選別し、用途に応じてどの建物に集約すべきかを考えた方がよい。
- ・庁舎だけでなくふれあい福寿会館からヒマラヤアリーナまでの一体的な公共スペースとしての価値観の向上を、この機会に考えるのは重要だと思う。